

東京を抜かずぐらゐの勢いで、自然エネルギーも色々やっているわけですから、自分たちはそういうものも使いながらどういうふうにやっていくかということを大きく打ち出していくことができればいいんじゃないかなと思います。

政府は、今度のG8サミットに行くときに、日本もちゃんとやっているということをお願いしたいということで、日本の戦略を作るための部会を作りました。二十六人委員がいて、私もそのうちの一人で、二十一世紀環境立国戦略特別部会というのに参加しています。

温暖化は一兆円ビジネス

これは、昨日のニュースでしたか、京都議定書を守るために日本は二酸化炭素を削減しないといけないんですが、そのために政府が支出する予定のお金は一兆円を超えています。これ、すごいビジネスですよ。二酸化炭素というだけで日本の中で一兆円と言うお金が動く。そういう時代になってきています。ですから、温暖化をできるだけ止める方向で動きつつ、戦略的にこういったお金をちゃんと自分たちのところへ持ってきてビジネスとしてやっていくとい

温暖化時代の企業戦略

少しだけ企業の話をしようにと思います。温暖化に関していうと、これからますます温暖化対策を強化せざるを得ないですね。炭素税も入ってくるでしょうし、例えば輸送コストといったものはきつとどんどん上がっていきます。人々の見る目もどんどん厳しくなってきます。企業の方は、NGOじゃないんだから環境によくて経済的に見合わなかったらできません、といわれます。その通りだと思えます。しかし、ぜひ、企業の人に考えて欲しいのは、これからの社会はどうなっていくかです。炭素税が入ってくる、つまり二酸化炭素を出すとそれだけ税金をたくさん払わないといけない。そうしたら、経済的に見合つ線が上のほうにずれます。そして、資源がなくなってくる。遠からず石油が枯渇するピークオイルという問題がありますが、そうしたときに、プラスチックも燃料も暖房の灯油もみんな値段が上がっていきます。すると、風力や太陽光の発電が前よりも経済的に見合うものになっていきます。さらに異常気象で竜巻だ洪水だと起ってくる、と来るべき災害を抑えるほうが安上がりだということになってきます。つまり、現在、皆さんも

う企業やコミュニティが今増えつつあります。これはますます追い風が吹きます。日本はどうしたってお金を使わないといま削減できないくらい量になってしまっています。だとしたら、そのお金を自分たちの町おこしのためであるとか、地域づくりであるとか、重ねた形でどうやって使ったらいいか、ぜひ稚内市としても考えていかれたらいいと思います。

日本政府のシナリオと

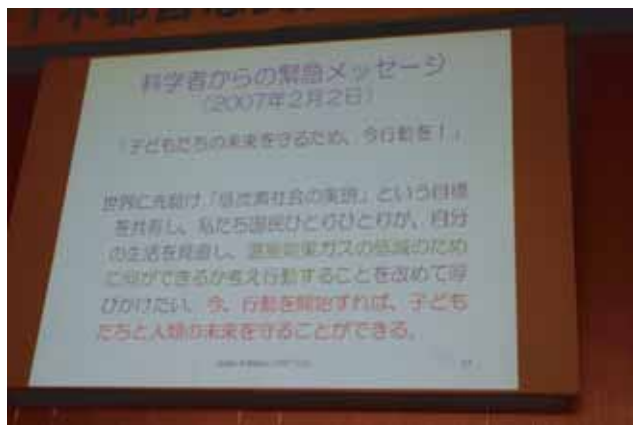
科学者からの緊急メッセージ

日本も大きな数字が出せないでいるわけではなくて、国立環境研究所を中心に脱温暖化二〇五〇プロジェクトというのがあります。ここが最近とても野心的な中間報告をだしました。おそらく、これを政府はひとつのベースにしていくと思いますが、認識として日本も六〇から八〇%減らないといけないと述べています。この報告書のポイントは、日本は二〇五〇年に七〇%減らすことが可能だということです。絶対量を七〇%減らすためにそれぞれどういう分野がどれだけ減らしてその手段はどういうものかというシナリオをつくったのです。

チャンスは先に動いた者だけに

面白い話があるのでご紹介しておこうと思います。昨年とても原油価格が上がりました。アメリカにはたくさん航空会社がありますがみんな大赤字で大変でした。ところが、一社だけ、サウスウエスト航空というところは悠々と営業していました。何が違ったのか。今をさかのぼること七年前、一バレル石油の価格が二〇ドル位だったときです。その時代にサウスウエスト航空の財務の責任者がうちの会社の財務の体質はどうなっているかということをつぶさに調べました。そのときに、思っていたよりもコストの中で原油の占める割合が高いことがわかったんですね。その人が偉かったのは、そのときに一人の人を専従で貼り付けて、原油の価格はこれからどうなるかを徹

また、二月初めに、日本の科学者からの緊急メッセージというのが出ました。IPCCに関わっている科学者が中心なのですが、ポイントは、今行動すれば、子どもたちと人類の未来を守ることができる」という最後の結びです。裏返すと今行動を起こさないと本当に危ない状況だということです。科学者から国民に向けての緊急メッセージが出されるというのは日本ではあまりないことです。



科学者からの緊急メッセージ（講演スライドより）

底的に調べさせただんです。そのとき、このままいくと原油価格がどんどん上がっていく、それは、みんなが言っている何百年先ではなくて、おそらく十年二十年先だろという報告が上がってきました。その財務の責任者が偉かったのは、そのときに原油をヘッジで買ったんです。ヘッジで買ったというのは今の価格でこの先何十年買つという約束を先にしてしまうのです。ですから、サウスウエスト航空は一バレル六十ドル七十ドルになっても最初に約束した二十か三十ドルで買い続けることができました。ですから原油が上がっても赤字にならなかった。これは本当の話です。そのときの財務の責任者は、先見の明と決断力と行動力が評価されてそのあとサウスウエスト航空の社長になつていきます。企業としても企業の中の一入ひとりとしても、今問題がないから大丈夫、ではなくて、このままいけばどうなるかということを考えて必要な手を打っていく必要があります。みんなが気がついてからではもうヘッジはできません。先に動いたものだけが利益をあげることができるわけです。